

今月の 最優秀作品

扁額

かな条幅
紅彩 大島 詩優 柔らかな墨色で疎密の変化をつけた美しい縦流れ。鋒先の開いた渴筆部と「蟬の聲」の墨量の対比も良い。
(選評 池田 彩雲)



秀景 高橋 里歩

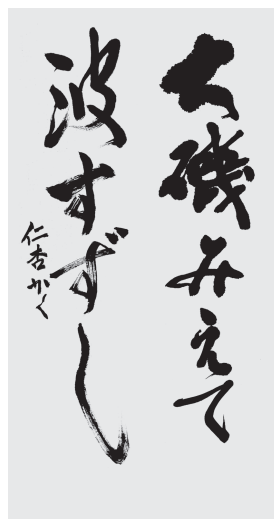
多くの力作の中、ゆったりとおおらかな運筆が、一際光った。墨色、布置よく、躍動感ある明るい秀作。
(選評 春山 圭子)

ペン

嚶鳴 本田 実和 ペン運びが美しい明るい作品。漢字の字形を正確にとらえ、仮名とのバランスも良い。ペン圧による線質の変化が見事で清々しい。
(選評 平川 恵翔)

嚶鳴	教室	八	段	氏(姓書)	本田 実和	級
奈良時代には仏教が盛んになり、これを広めるための写経が国家的規模で行われるようになった。						

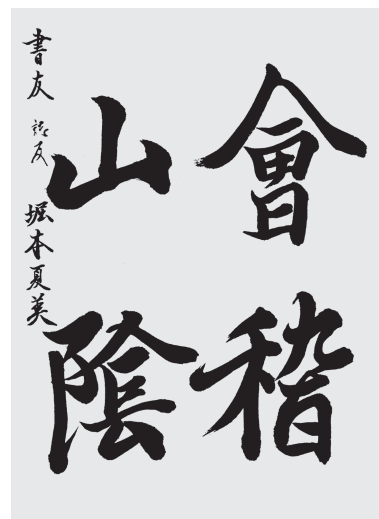
かな半紙



井三 刈屋 仁杏

明るくリズムカルな「鉄道唱歌」の情景が目に浮かぶような作品。一行目と二行目の墨量が相対的に見応えあり。落款がもう一步。
(選評 中村 紫泉)

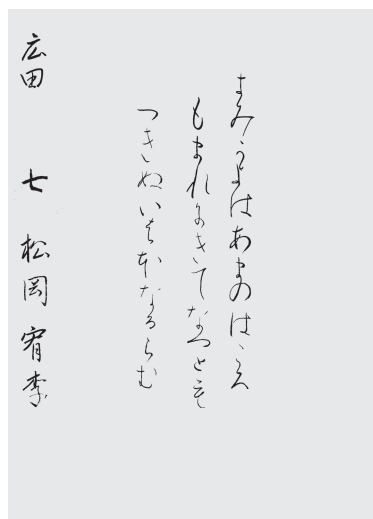
新和様



書友 堀本 夏美

蘭亭序の流れも正確に倣い、自然な入筆や緩急抑揚も見事に表現し、布置も良く完成度の高い作品。
(選評 阿部 湘花)

漢字半紙



広田 松岡 宥季

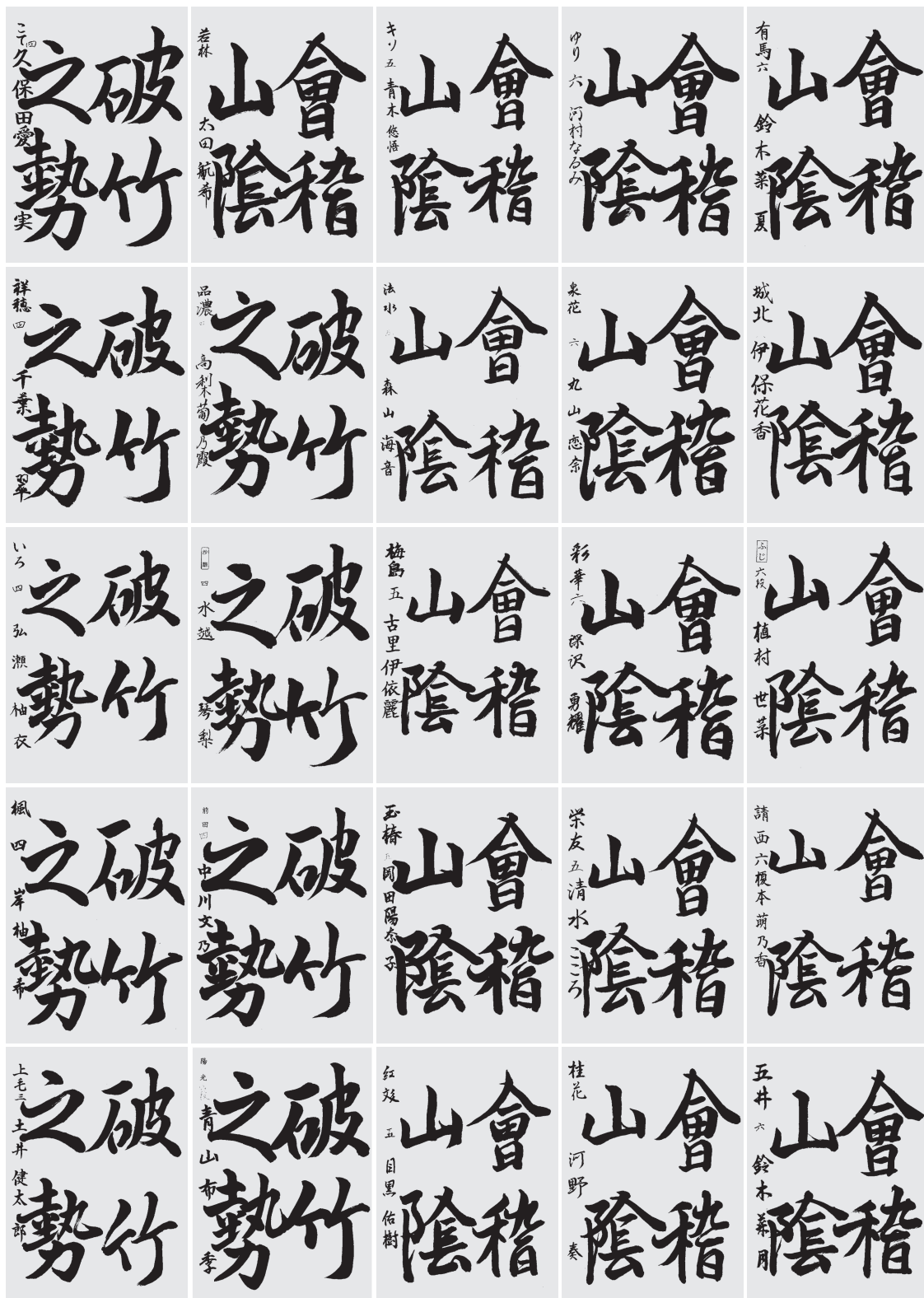
伸びやかな書線で、太細、濃淡や疎密の変化を丁寧な運筆により表現した臨書作品。又、磨った墨の色が他を圧倒。
(選評 八尋 光華)



7月提出の競書作品の写真版全作品は7月23日(木)より本会ホームページに掲載いたします。

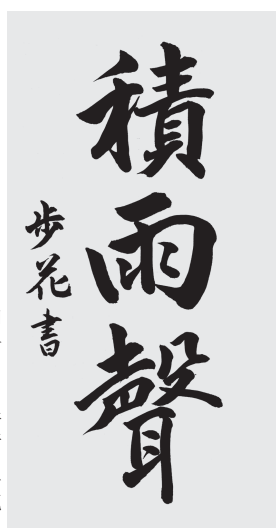
◆ 今月の優秀作品 ◆

吉祥七 坂田悠理 山會 陰稽	大器 皆川颯空 山會 陰稽	三志八 藤崎千恵子 山會 陰稽	小杉 川合真季 山會 陰稽	藏前 松尾大堂 山會 陰稽
上清 神保潤子 山會 陰稽	八仲田 聖奈 山會 陰稽	了安八 船橋ことみ 山會 陰稽	とち準 詔友武 山會 陰稽	山内 幸村 山會 陰稽
能見 大前樹 山會 陰稽	二和 早坂美桜 山會 陰稽	大楠八 岩田栗奈 山會 陰稽	清月 田中麗 山會 陰稽	文月準 詔友 山會 陰稽
春月 七大野さくら 山會 陰稽	玉弥 七松澤仁志 山會 陰稽	ハ 田島胡采 山會 陰稽	安峯 坂上心奈 山會 陰稽	園友 熊谷奈都 山會 陰稽
玖泉 セ 星うりり 山會 陰稽	あい 桜木那波 山會 陰稽	香志八 渋谷凛季 山會 陰稽	やの 武井紫理 山會 陰稽	可書 津田中彩鈴 山會 陰稽



うみ初森上 瑞穂 之破 勢竹	移果 山中嶋 梨子 之破 勢竹	メグ ハ木 之破 勢竹	白鳥 柿沼 育実 之破 勢竹	大井 三 池田 紗蘭 之破 勢竹
越谷 田村 彩乃① 鏡万 華	桂書 初 細野 真友 之破 勢竹	久青 金子 夏希 之破 勢竹	沼部 中村 朱里 之破 勢竹	奈良 末次 圭 之破 勢竹
鏡万 華 二松 後関 愛結	藤 鈔室 之破 勢竹	胞山 高橋 橋々 之破 勢竹	小絹 木村 日菜乃 之破 勢竹	長強 二 進藤 愛利 之破 勢竹
秀景 小山 菜羽 鏡万 華	佐竹 村松 佳 之破 勢竹	祥 水谷 智子 之破 勢竹	瑞樹 二段中島 佳火 之破 勢竹	桶川 長友 美和 之破 勢竹
和同 高橋 茜 鏡万 華	筑波 初 渡邊 萌々 之破 勢竹	加茂 初 田浦 凛のん 之破 勢竹	白井 二大内 心愛 之破 勢竹	岐七 三井上 楓彩 之破 勢竹

あさ、 浅井 楓 わのおくやま けふこえてあ	り小 小熊くるみ わのおくやま けふこえてあ	清月ニ矢嶋奏太郎 さー潮ー あゑのかりをほ まうら	橋島ハ 高木珠子 さー潮ー あゑのかりをほ まうら
湖月 北村胡桃 わのおくやま けふこえてあ	大井 久保田莉央 わのおくやま けふこえてあ	秀景ニ山田紗李 さー潮ー あゑのかりをほ まうら	大楠 七 酒井 葉月 さー潮ー あゑのかりをほ まうら
二松 後関愛結 わのおくやま けふこえてあ	神子 大宅希呼 わのおくやま けふこえてあ	II 初居軒綾音 さー潮ー あゑのかりをほ まうら	栗丘四 吉野 暁 さー潮ー あゑのかりをほ まうら
浦 灰 わのおくやま けふこえてあ	音井 金子 葉能 わのおくやま けふこえてあ	品濃 吉田 莉緒 わのおくやま けふこえてあ	玉高 三 田中 愛紗 さー潮ー あゑのかりをほ まうら



仙水
安倍 歩花



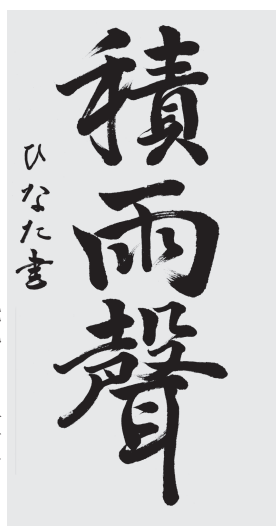
英花
菅沼 芽生



恵彰
大森 詩音



游心
秋山 幸希



能見
松村ひなた



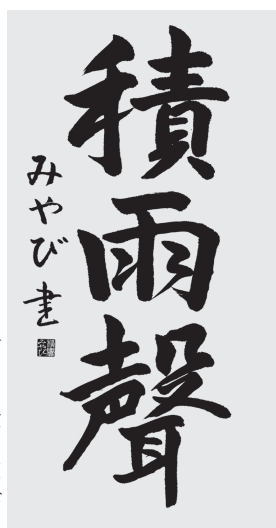
東海
中野 蓮介



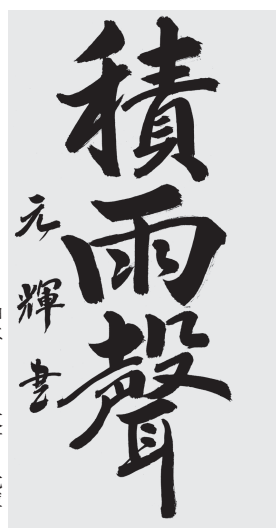
恵那
前田 月渚



分水
皆川 和奏



曾水
横関みやび



神べ
大村 元輝



書倫
木村 有希



H M
四本 琴雪

詠雪 幸山 夏帆

大磯みえて
波すずし
夏帆かく

潮来 飯田 和美

大磯みえて
波すずし
和美かく

月倫 田島 桜雪

青い
雨にそか雨
桜雪かく

青二 田端 千紘

青い
雨にそか雨
千紘かく

松原 金子みやび

ふさやまこし
みづる
鯉の影

頸城 細井陽加里

大磯みえて
波すずし
陽加里かく

紅衫 高田 釉哉

大磯みえて
波すずし
釉哉かく

清月 中村 悠真

青い
雨にそか雨
悠真かく

新井 福田 心優

青い
雨にそか雨
心優かく

仙水 筋野 愛菜

大磯みえて
波すずし
愛菜かく

II 居軒 綾音

大磯みえて
波すずし
綾音かく

山本 片野 愛珠

大磯みえて
波すずし
愛珠かく

大楠 佐藤 琉衣

青い
雨にそか雨
琉衣かく

湘花 阿部里衣紗

ふさやまこし
みづる
鯉の影

品濃 大森 那月

大磯みえて
波すずし
那月かく

三志 小高 良子

大磯みえて
波すずし
良子かく

能見 松村ひなた

大磯みえて
波すずし
ひなたかく

三志 増山 美和

青い
雨にそか雨
美和かく

のうぜん
花を数へて
書倫
柴日影
木村有希

のうぜん
花を数へて
柴日影
大部 井上和奏

のうぜん
花を数へて
柴日影
恵那 田中 琉准

のうぜん
花を数へて
柴日影
松原 船木 李苗穂

のうぜん
花を数へて
柴日影
加西 佐竹 翔太

のうぜん
花を数へて
柴日影
栗丘 吉池 日向

のうぜん
花を数へて
柴日影
手泉 熊谷 朋華

のうぜん
花を数へて
柴日影
久青 高崎 紬乃

のうぜん
花を数へて
柴日影
HG 青木 幸雪

のうぜん
花を数へて
柴日影
月倫 田島 桜雪

奈良時代には仏教が盛んになり、
これを広めるための写経が国家的
規模で行われるようになった。
大楠 教 八 段 今谷 紗季

奈良時代には仏教が盛んになり、
これを広めるための写経が国家的
規模で行われるようになった。
悠 教 八 段 石川 陽藤

奈良時代には仏教が盛んになり、
これを広めるための写経が国家的
規模で行われるようになった。
二和 教 八 段 土門 里紗

奈良時代には仏教が盛んになり、
これを広めるための写経が国家的
規模で行われるようになった。
素京 教 八 段 森山 紗菜

奈良時代には仏教が盛んになり、
これを広めるための写経が国家的
規模で行われるようになった。
陽翠 教 八 段 石川 弥々

奈良時代には仏教が盛んになり、
これを広めるための写経が国家的
規模で行われるようになった。
佳心 教 八 段 久保 遥月

奈良時代には仏教が盛んになり、
これを広めるための写経が国家的
規模で行われるようになった。
永岳 教 七 段 池 音葉

奈良時代には仏教が盛んになり、
これを広めるための写経が国家的
規模で行われるようになった。
広布 教 七 段 上園 希寧

奈良時代には仏教が盛んになり、
これを広めるための写経が国家的
規模で行われるようになった。
蘭友 教 七 段 庵原 万結

奈良時代には仏教が盛んになり、
これを広めるための写経が国家的
規模で行われるようになった。
コム 教 七 段 原 田 蒼

奈良時代には仏教が盛んになり、
これを広めるための写経が国家的
規模で行われるようになった。
文月 支那 七 段 氏名 坂井 里穂

奈良時代には仏教が盛んになり、
これを広めるための写経が国家的
規模で行われるようになった。
陽泉 教 七 段 氏名 西 桃花

今月の優秀作品

奈良時代には仏教が盛んになり、これを広めるための写経が国家的規模で行われるようになった。	奈良時代には仏教が盛んになり、これを広めるための写経が国家的規模で行われるようになった。	奈良時代には仏教が盛んになり、これを広めるための写経が国家的規模で行われるようになった。	奈良時代には仏教が盛んになり、これを広めるための写経が国家的規模で行われるようになった。	奈良時代には仏教が盛んになり、これを広めるための写経が国家的規模で行われるようになった。	奈良時代には仏教が盛んになり、これを広めるための写経が国家的規模で行われるようになった。
若水 二 飯 味 綾 香	福岡 三 樋口 さくら	武並 四 木股 真成	楓 五 岸 柚 希	彩華 六 深 沢 勇 雄	南平 七 黒川 智 帆
奈良時代には仏教が盛んになり、これを広めるための写経が国家的規模で行われるようになった。	奈良時代には仏教が盛んになり、これを広めるための写経が国家的規模で行われるようになった。	奈良時代には仏教が盛んになり、これを広めるための写経が国家的規模で行われるようになった。	奈良時代には仏教が盛んになり、これを広めるための写経が国家的規模で行われるようになった。	奈良時代には仏教が盛んになり、これを広めるための写経が国家的規模で行われるようになった。	奈良時代には仏教が盛んになり、これを広めるための写経が国家的規模で行われるようになった。
名西 初 杉原 亜 美	奈良 三 末 次 圭	有 珍 四 根 本 真 愛 己	青二 五 高 野 亜 美	桑文 六 岡 崎 優 維	新木 六 梅 澤 里 奈
奈良時代には仏教が盛んになり、これを広めるための写経が国家的規模で行われるようになった。	奈良時代には仏教が盛んになり、これを広めるための写経が国家的規模で行われるようになった。	奈良時代には仏教が盛んになり、これを広めるための写経が国家的規模で行われるようになった。	奈良時代には仏教が盛んになり、これを広めるための写経が国家的規模で行われるようになった。	奈良時代には仏教が盛んになり、これを広めるための写経が国家的規模で行われるようになった。	奈良時代には仏教が盛んになり、これを広めるための写経が国家的規模で行われるようになった。
杏 初 岡 本 花 穂	品濃 二 山 崎 愛 奈	やま 四 大 貫 美 空	ふじ 五 植 村 世 葉	松田 六 鈴 木 や よ い	の川 六 藤 田 菜 奈 美
奈良時代には仏教が盛んになり、これを広めるための写経が国家的規模で行われるようになった。	奈良時代には仏教が盛んになり、これを広めるための写経が国家的規模で行われるようになった。	奈良時代には仏教が盛んになり、これを広めるための写経が国家的規模で行われるようになった。	奈良時代には仏教が盛んになり、これを広めるための写経が国家的規模で行われるようになった。	奈良時代には仏教が盛んになり、これを広めるための写経が国家的規模で行われるようになった。	奈良時代には仏教が盛んになり、これを広めるための写経が国家的規模で行われるようになった。
加茂 初 田 浦 凜 の ん	東京 二 関 岡 凌 風	松平 三 天 野 結 菜	番桜 五 藤 井 乃 々 華	清月 六 矢 嶋 奏 太 朗	川園 六 田 尻 純 麗

教習名	時計	時計
氏名	花嫁	花嫁
氏名	茅の輪	茅の輪
光書	平野	美桜

教習名	時計	時計
氏名	花嫁	花嫁
氏名	茅の輪	茅の輪
大楠	梅本	結衣

金町	教習	筆用の獣毛としては、羊、馬、イタチなどが一般に使われる。
保科	教習	袖雅
夕	教習	夕
夕	教習	夕

船堀	教習	筆用の獣毛としては、羊、馬、イタチなどが一般に使われる。
市川	教習	森
一	教習	一
一	教習	一

教習名	時計	時計
氏名	花嫁	花嫁
氏名	茅の輪	茅の輪
蘭友	佐々木	美音

教習名	時計	時計
氏名	花嫁	花嫁
氏名	茅の輪	茅の輪
梅島	舟崎	桃子

子安	教習	筆用の獣毛としては、羊、馬、イタチなどが一般に使われる。
村上	教習	結泉
夕	教習	夕
夕	教習	夕

小絹	教習	筆用の獣毛としては、羊、馬、イタチなどが一般に使われる。
荒	教習	典華
一	教習	一
一	教習	一

華	教習	筆用の獣毛としては、羊、馬、イタチなどが一般に使われる。
淡口	教習	喜衣
夕	教習	夕
夕	教習	夕

三志	教習	筆用の獣毛としては、羊、馬、イタチなどが一般に使われる。
松岡	教習	紀子
夕	教習	夕
夕	教習	夕

教習名	時計	時計
氏名	花嫁	花嫁
氏名	茅の輪	茅の輪
三田	河村	風紗

教習名	時計	時計
氏名	花嫁	花嫁
氏名	茅の輪	茅の輪
書友	堀本	夏美

五番	教習	筆用の獣毛としては、羊、馬、イタチなどが一般に使われる。
石井	教習	絢美
夕	教習	夕
夕	教習	夕

戴目	教習	筆用の獣毛としては、羊、馬、イタチなどが一般に使われる。
佐々木	教習	のり
夕	教習	夕
夕	教習	夕

<漢字一字書>

<平かな一字書>

書友
堀本
夏美



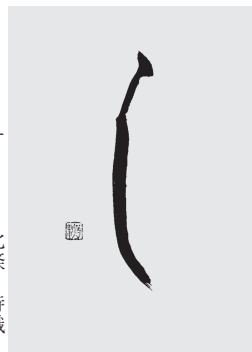
湘花
阿部里衣紗



一倫
上田
龍悠



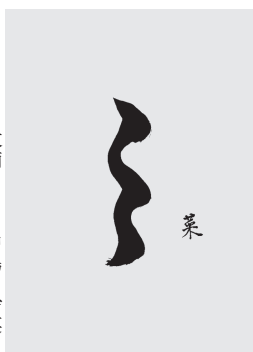
そり
北條
詩織



加西
廣田
瑞稀



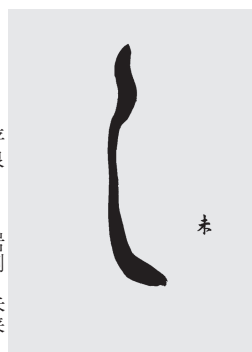
大楠
中島
沙菜



平泉
熊谷
朋華



平泉
岩渕
未来



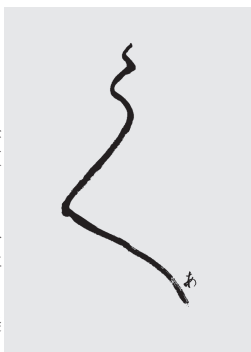
書友
小野田一葉



景水
弓野
うた



書友
鈴木あゆ美



松林
小泉蓮太郎



光書
友永
実来



平泉
吉野
絢菜



加西
角谷
実優



桂書
曾我
優月

